

Tokyo
Steel-rib
Fabricating
Association

Report

東構協

<http://www.tsfa.jp/>

2019 年 (平成 31 年)

新春号

[第 28 号]

発行 東京鉄構工業協同組合
〒 104 東京都中央区八丁堀 3-9-5 KSビル6階
- 0032 TEL : 03 (5566) 1595
FAX : 03 (5566) 1597

写真 有明アリーナ (江東区)



「躍進」 理事長 吉岡 晋吾

新年明けましておめでとうございます。

2018 年度の世界の景気は米国を中心に拡大が続いたが、米中の貿易摩擦、中国景気の減速、中東情勢で原油価格の高騰など、また、国内では 7～9 月に西日本豪雨や北海道胆振東部地震などの大きな自然災害に見舞われた。個人消費が落ち込み、原材料費の高騰や不足、また人件費の上昇もあってマイナス成長になった。

また、前年度に比べ景気自体は上昇し、企業の倒産数は減少したものの後継者不足や人材不足によって倒産せざるをえない企業も増えていることも事実である。そして 10 月には消費税が 10% に引き上げが予想されていることによる景気先行きの不透明さなど業界にとってのマイナス要素が多々存在する。2020 年の東京オリンピックの開催によって一時的な景気回復が見込まれるが、業界における一番の問題は人材不足や後継経営者の不足で大変深刻な問題であり、今現在の繁忙期におい

て仕事量がこなせなく、外国人研修生を雇用し技術力や言葉の問題、生活習慣などをクリアしながらなんとか切り抜けているのが現状である。

男女問わず、若い人材が興味を持ってもらえるような魅力ある業界にしていくために東構協・協力会そして鉄土建と東京足立が協力し皆さんに有益な情報を発信していきたいと思う。

今年はいノシシ年。そして今年の 5 月より平成から新年号に代わり新しい時代に変わる節目を迎える。

何事にもまっすぐに突進していき、壁にぶつかってもみんなで協力し合いながら乗り越えてさらなる躍進をして業界を盛り上げていきたいと思っております。皆さんのご協力を心からお願いいたします。 (吉岡工業社長)

組合理事役員 年頭のあいさつ

5年後の業界の在り方



副理事長
経営近代化委員長
武田 忠義

今年度の鉄骨需要は、関係者の話を総合すると520～530万トンになると予想されている。ここ数年500万トンの需要が安定的に続くことになるが、昨年繁忙感には本来の繁忙と少し違っていたのではないかと思う。

期ずれへの対応が常態化している最中に、プレスコラムやビルトH形鋼、ビルトボックスなどの厚板関連製品がひっ迫、しかも高力ボルトやデッキプレートなどが調達難となり、とくに高力ボルトの納期が長期化するという過去に経験したことの無い事態が発生した。輸送やレッカー車のほか、現場溶接、鳶・鍛冶職人など人手不足を起因とする手配も難航、しかもすべての単価も上昇したことから、客先への理解を得なければならず、昨年こうした対応に追われての一年ではなかったかと思う。

本来、ファブは計画生産が円滑に進んで幾らの業界。残業や休日出勤を強いられ、無理な外注先への依頼は大きな経営負担になることは自明の理である。しかも単価上伸分の転嫁が図られないとなれば、まさに繁忙薄利となるのは言うまでもない。

東京五輪が開幕する2020年までは今のような業界環境が続くとみる関係者は少なくない。問題は五輪閉幕以降だか、首都圏を見る限り、都内の麻布台や常盤橋、虎ノ門など1プロジェクトで十数万トンの鉄骨が使用される再開発が目白押しの状況にあり、今以上の

需要になると言われている。実際に5年先までの仕事の引き合いが相当量あるようで、首都圏の需要動向をみる限りでは心配はない。

ただ、現実には経済情勢が悪化しなければという条件付きで、想像もしない事態に突き落とされた過去の話も尽きない。世の中は得てして我々が思うように進まないものである。

人材不足と対応能力を起因とする問題に関しても、今以上に厳しくなることは容易に想像がつく。

極めて難しい問題だが、答えは100社あれば100異なる。当然のことをあえて書くが、何が起きても経営が安定する方策や基盤を構築することが大切。先を見据えながら、今何を最優先として取り組まなければならないのか、最新情報を方策や改善に生かす対応が求められていることは間違いない。(叶産業相談役)

我が家のお犬様



副理事長
総務・広報委員長
前田 茂昭

成年の昨年、前田家では犬を飼い始めた。秋のある日のこと妻が『どうしよう、本当に犬を飼おうかしら』と相談してきた。息子が近所のペットショップの子犬に惚れたらしい。今までも『どうしても見て欲しい犬がいる』などと言われ、ペットショップに見に行ったりしたが、50万円の値札が付いたフレンチブルドッグであったりして、なかなか手が出なかった。

しかし今度ばかりは本気のような。お値段もリーズナブルな〇万〇千円とか。妻の面倒が増えるのが心配ではあったが、息子も小学五年生、11歳にもなり、ある程度の世話はできるようになっただろう。もちろん私も出来



る限り面倒を見るつもりだ。私は賛成した。

数日して私が旅行から帰宅すると、子犬はゲージの中をうろちょろしていた。両親が犬好きだったのでペットとの生活には子供の頃から慣れていたつもりだが、私が家族を持つてからは初のペットである。ちょっとした感激のご対面だ。片耳だけ垂れたそれほど器量の良くなさそうな雄犬だったが、そんなことはどうでもよくなるほど、可愛らしく小さな奴だった。ゲージから出すと人の手をよく噛む。やたら噛む！とにかく噛む！甘噛みというか辛噛みである。

子犬の犬種はパピヨンで名前はブライトである。英語で『明るい』という意味なので、『明るい？』とよく聞かれるが、息子曰く、犬の毛色である『ブラウン』と『ホワイト』を合わせて『ブライト』だそうだ。なんだかずいぶん気の利いた名前だ。

最近では犬に外出時は綿入りのコートを着せて、部屋では部屋着のシャツ、夜になると息子とお揃いのパジャマまで着せたりしているようだ。犬に話しかけるときは、もちろん赤ちゃん言葉という見事なお犬様っぷり。なんだか見ていると馬鹿馬鹿しい感じもするのだが、まあ可愛いからいいか。親バカ？ですいません。以上、昨年のちょっとした出来事。(前田製作所社長)

朝会を振り返る



副理事長
教育・技術委員長
Mグレード部会 部長
谷村 忠行

弊社では毎月最初の月曜日7時から朝会を全社員参加で行っています。

その時のメッセージをまとめました。

1月

- いのち（命）→限られた時間の中で生きている。命とは自分が使える時間。無駄にするのも、価値のあるものにするのも自分次第です。後悔の無いように進むのみ。後何年働けますか？何年生きていますか？
- きもち（気持ち）→真剣に本気で仕事に向き合っているか？愛する妻に感謝しているか？常に相手の気持ちを感じることができるか。思いやり。気遣い。気配り。根回し。清潔。有難うございます。挨拶。
- あやまち（過ち、誤ち）→間違いは誰にでもある、その後の対応が大事！特にクレームは大騒ぎして欲しい。信用を落とすのは簡単です。信用を築き上げるのは大変です。そして過ちを許すことも大事。完璧な人はいない。

2月

- 健康第一主義。たばこは百害あって一利無し。血管の病気はサイレントキラーです。発症したら手遅れです。私は自分の健康のために今年から怒鳴らないし、怒らない！
- 情報は与えられるものと、自ら取りに行くものがあります。積極的に動いて欲しい。会話も自ら発信で。
- 報告＋確認のだろうについて、相手が分かっているだろう思っているも分かっている。やっているだろうでもやっていない。日々の確認。

3月

- 何の目的のためにその業務を行っているのか？あなたはその最終形を理解して日々業務していますか？指示者が指示不足ならば質問して、最終形を理解してから作業すること。

4月

- 電話は短く！長い電話は時間とお金の無駄です。電話を掛ける前に要件を頭で考える。
- 「奪うに益無く、譲るに益有り」先

を急ぐ気持ちを少し抑えて「お先にどうぞ」と譲り合ったほうが、「我れ先に」よりも安全にそして気持ち良く仕事出来る。

- 今日ここまで仕事を終わらせると言う気持ちがある人とない人の違いは集中力だと思う。目を見ればわかる。

5月

- 電話には極力出る事。あなたの声を聞きたくて相手は電話している。折り返しの無い人は相手への思いやりがない人。無責任な人＋無能な人。
- その仕事の目的＋本質を理解していますか？何のためにその精算書を作成するのか？お客様から気持ち良くお金を貰うための資料です。常に本質を理解して欲しい。

（谷村製作所会長）

外国人労働者受け入れと業界



理事
青年経営者委員会幹事長
松田 一郎

昨年の1月に当社としては初の技能実習生2名がベトナムハノイより来た。彼ら（ティとトアン）としても当社としてももうすぐ1年となる。ハノイでの面接では「明るさ」を重視して選考した。当初は挨拶程度だった日本語能力は、二人とも陽気に話かけてくる性格なためか、予想以上の速度で上達している。

昨年の夏は記録的な暑さだったが、



ある日ティが「シヤチョウ、ニホンアツイデス」と言った時には思わず笑って

しまった。仕事の上達も速く真面目で日本人社員に可愛がられ、すっかり溶け込んでいる。

外国人労働者の法改正に絡み、各方面でその問題点が議論されている中、私が疑問に思うことは「業界として外国人労働者受け入れは本当に良いことなのか？」だ。個別の企業の当社としては人材不足の解消に大いに役立っている。しかし外国人労働者を多く受け入れる業種は賃金が上がらない結果になるらしい。考えてみれば当然。通常は高まった需要に供給が足りなくなり、加工費が高騰する。外国人労働者は、この市場の原理を歪める方向に作用する。目先の人材確保は出来ても、長期的には事業者や従業員の利益にならない恐れがある。

鉄骨業界はいわゆる3Kイメージのせいで大学全入時代の昨今ではなかなか積極的に選ばれない業種。ところが高度化した鉄骨には高い知性と長い熟練が必要だ。こうなれば高給でもなければ若い人は集まらない。本来業界として優先的に取り組まなければならないのは加工費上昇のための施策ではないだろうか。矛盾のようだが「個別」と「全体」では向かうべき方向が異なる局面は時に現れる。業界全体の未来についての冷静な議論が必要と思う。

（松田鋼業社長）

なりたい職業ランキング



理事
池田 和隆

「なりたい職業ランキング」と目を引く見出しを見つけたのは、うちの子供が通っている学研の冊子でした。どれどれと見てみると、第一位から順番に、プロサッカー選手、プロ野球選手、学校の先生、電車の運転士、学者・

研究者・科学者、大工・建築士、警察官、パイロット、薬剤師、10位のユーチューバーとなります。

やはりいつになっても、サッカー選手、野球選手は子供のあこがれなのだと思いつつ、なんと第5位に大工・建築士とあるではありませんか。大工といえば、大工の棟梁が造る木造住宅が主に思い起こされますが、我々の手がけている鉄骨も「鉄の大工」と言い換えてもよいと私は思っています。この順位をよしと捉えて、私たちは何をするのか？

鉄の大工である鉄骨屋の業界イメージアップも必要でしょう、業界アピールも必要です。他のブロックでは、子供達があつまるイベントなどで、軽量の鉄骨をボルトで組立するブースを出展したりしています。若い世代にこんな職業もあるのだと意識付けをすることが大事になってきます。

弊社も先日、インターンシップで2人の工業高校生を5日間受け入れました。インターンシップ前の彼らは、鉄骨の工場で働いている人は怖いというイメージがあったみたいですが、インターンシップが終わるころには業界へのイメージががらりと変わりましたと言ってくれました、正直、忙しい時に、2人の高校生の指導をするには、人手を割かなければいけませんし、非常に手間ではありましたが、今回のインターンシップを通じて少しでも鉄骨

業界をアピールできたと思います。私達は、これから、職場環境などいろいろと整備し、若い世代から選ばれる業界にしていかなければいけないと思います。(池田鉄工社長)

求人について



理事
森 芳恒

2020 東京オリンピックに向けて各社、仕事の受注状況は好転して連日忙しい日々をお過ごしでしょうが、人手不足はより深刻なのではないでしょうか？

当社も、この1年でベトナムからの実習生と留学生のネパール人計4名の外国人を受け入れてまいりました。おかげで長年にわたり日本人だけで運営してきた会社が急に国際色豊かになって、今年は設計部門にも外国人を採用の予定であり、今年度中に社員の半数以上が外国人になる予定です。

もちろん、従来の求人募集は続いているのですが、いかんせん応募がありません。たまたま、応募があっても職歴がブランクだらけ何年も働いていない、残業がない仕事を探してます等々...採用できない状況が続いています。

当社で働いている外国人は3年間で300万円貯金しました、あと500万円ためて帰国後、事業を起こしたいと明確に私に話してきます。実習生もちょうど一年ですが、100万円貯金することができました。「お金を貯めるためなので仕事はきつくても一生懸命働きます」と彼らは話します。今年から外国人の就職が緩和されますが、日本人の労働に対する考え方が改善されない限り、鉄骨業界はもちろんすべての業界の労働力には外国人が増え続けるだろうと私は感じています。

果たしてこの状況がいいのか悪いのかは何年かの時間が経過してみないと結果は出ないのでしょうか。

(日本鉄構建設工業社長)

外国人実習生の受け入れ



理事
飯田 茂

当社では2017年11月よりインドネシアの外国人技能実習生3名を受け入れ始め、約1年が経過いたしました。

以前より外国人実習生を受け入れる話が上っており、今回インドネシア人を受け入れた経緯に関しては、インドネシアは宗教上飲酒をしない、と言

JASS6改定講習会を開く 実務担当者ら約60人が受講

当組合は4月12日、東京都江東区の東京YMCA東陽町ウエルネスセンターで「建築工事標準仕様書JASS6 鉄骨工事及び鉄骨性能評価基準マニュアル類の改定に関する講習会」を開き、組合員約60人が受講した。会場には経営者のほか、実務担当者の姿

が目立った。

教育・技術委員長の吉岡晋吾副理事長が、講習会の趣旨説明を行った後、東構塾の青野弘毅塾長(元那須ストラクチャー工業)が改定されたJASS6の主な項目について解説した。青野塾長は独自の資料を用いてJASS6改定の趣旨、鉄骨工事技術指針の位置づけなど基本的な内容を説明した後、鋼材・ボルト、工作・組立、溶接、高

力ボルト接合、ボルト接合、塗装、溶融亜鉛めっき工法、検査など各節ごとの主な変更箇所を技術的な説明を加えながら詳細に解説した。



うことから、飲酒によるトラブルはないだろうとインドネシア人を採用することに決定致しました。

受入前に受入団体から注意事項として、今回、実習生として来るインドネシア人はイスラム教であることから、前記した飲酒はしない、それだけではなく、豚肉は食べない、毎日お祈りを捧げる「ラマダン」と呼ばれる断食があり、断食に関しては日の出から日の入りまで食事を摂らないため、残業がある場合は17時に休憩を取らせて食事をさせて欲しいとの注意事項を受け、インドネシア人実習生を受け入れました。

今回の教育課程が鉄工として受け入れたことから、配属前に「玉掛け」「床上操作式クレーン」「溶接の特別教育」の資格も受入団体で取るように手配しての受け入れとなりました。

実習（就業）が始まり、彼らの勤務態度は真面目で、インドネシアの国民性なのか、性格は大らかで、以前のような「出稼ぎ」と言う感覚はなく、近年の実習生は日本で技術、知識を学びインドネシアに帰って、日本で得た技術、知識を活用したいという姿勢を強く感じます。

休みの日は同じ受入団体の友人たちに会い、趣味のスポーツや音楽を楽しんだり、年に数回ある日本語検定に向けての勉強や受入団体が開催している勉強会に参加したりと、以前の、実習中は極力節約し賃金を貯めて母国に送金していたのとは違って、休日も使うべきところは使い、謳歌しております。

仕事内容的には溶接が得意な者には隅肉を専属的に、機械操作が得意な者には機械操作を専属的に、日本語が堪能な者には、全般をやらせるだけではなく、細かい日本語の通訳代わりとして実習をこなしております。

今後、日本人労働者の不足が今よりもっと加速していくかと思えます。外国人実習生の受け入れを考えている組合員の方に少しでも参考になればと思

い、今回筆を執らせて頂きました。

(飯田製作所専務)

歴史に学ぶこと



理事代理

松本 龍丈

『勝って兜の緒を締めよ』・・・この言葉は東郷平八郎、連合艦隊司令長官がロシア艦隊に勝利した後、解散式で述べた言葉です。もともとは北条氏綱の遺言を引用したものだろうと言われている。

後に日露戦争時、海軍中佐・第二艦隊参謀佐藤鉄太郎と海軍少佐・第一戦隊司令官 梨羽時起との会話が記録に残っている。われわれはなぜ勝利出来たか？についてこう語ったとある。

それは6分通り運が良かった。度重なる奇跡がもたらしたことが要因であろう。それでは残りの4分についてはどうか？それも運であろうと。それではすべて運が良かっただけではないかと。

最初の6分は天より授かりし運、後の残りは日本人が血みどろの努力を重ねて自らの手で掴み取った運と云ったが・・・

幸運・奇跡の重なりで勝利したことを東郷は杞憂しての言葉であったが、多くの日本人の心には残念ながら届かなかったようで、その幸運こそが『日本は神国どんな大国にも負けはしない』を作り上げ、太平洋戦争への道を突き進んでいく大きなきっかけとなったのであった。禍福は糾える縄の如し、まさに幸運と不幸は表裏一体で代わる代わる訪れるものであろう。

これからの日本、いや世界は確実に混迷の時代へと突入していくことは必須であろう。平和な時代というのは多少失敗しても『やりなおし』が利くの

だが、混迷の時代はそうはいかない。

戦国時代がそうであったように混迷が深まれば深まるほど、たった一度の過ちが取り返しのつかない失態につながる場面も多くなる。

転ばぬ先の杖ではないが『歴史に学ぶ』という姿勢は、より一層重要性を増してくるのではないであろうか。

(川岸工業執行役員営業部長)

教育とは



理事

金本 貴範

皆さん、平等にこの世に生まれたのがスタート。個々の家庭環境であったり、出生地、地域、国籍、学校、友人関係など様々な十人十色の生き方を人は他の人と同じ人がいない環境ができるのだと思います。

私事ながら昨年第一子が誕生して気が早いのですが、学校、教育方法など考えることがあります。国立、私立、公立など学校は様々ありますが、親の教育方針と子供に選択肢を多く与えられる学校が良いと考えています。

私が卒業した大学は建築系の学部でした。大学時代一緒に過ごした身近の友人は建築系に就職した人もいますが、なかには警察、銀行、役所、飲食店、娯楽など様々な業種に進んだ友人も多くいます。社会人になってそこから生活するためのスタートと思えますが、そのためにはやはり未成人時の教育が必要と考える年ごろになりました。部下も増えてきて口を酸っぱく言うのが嫌いな方なので、ミスや遅刻等あまり注意しないしていると人間は『あ。それでいいんだ。こんなもんでいいんだ。』と特に若い世代は錯覚してそれ以上の対応はしないことが多いようです。

戦後の間もない頃は衣・食・住を満足に出来なく、このままでは生きていけないというハングリー精神があったと思います。高度経済背長が進むにつれて人々は生活が豊かになり、着る物、食べる物、住む場所には困らなくなってきました。現在では実家暮らしの方が楽でなかなか自立しない若者が多いのではないかと。昔の職人は先輩の仕事ぶりを目で盗んで成長していったと思いますが、自己意欲がある若い職人さんでもまだまだハングリー精神が足りないと思います。これからの時代は学校と同じように会社でも道徳・知識・教養などの社内教育が必要になってきた時代と考えています。

(日伸鉄工建設常務)

昨年、家族が増えました



理事
Rグレード部会 部会長
角鹿 勝保

足掛け七年目の出来事でした。

昨年、ついに我が家にも新しい家族が増えました。名前は『寿々』と書いて、じゅじゅと読み、ミニチュア・シユナウザーの雄です。命名には、最後まで抵抗していた妻の案を子供達が承認したかたちとなった、非営利動物保護団体から譲り受けた保護犬です。

家には三人の娘がいて、長女が小学三年生の頃から犬猫を飼いたいと騒いでいました。

当時、実家には自分が拾ってきた犬を飼い、妻の実家には猫を飼っており、何故、自分達が飼えないのかを責められ続けました。幼い子供達では世話をするのが難しい、自分は犬派で妻は猫派などの、苦し紛れの言い訳を延々としていましたが、遂にある一つの約束をさせられてしまいました。妻には寝耳に水な約束で、長女が六年生の誕生

日の頃でした。

その頃には、テレビの特番や、ネットで動物保護団体を調べ、保護犬を飼うことが子供達の中で暗黙の了解となっていたようです。

七月の終り、約束達成というその時が来てしまい、表面化した約束から、自分は妻の機嫌を取りながらの説得をする役目を負いましたが、子供達はネットで堂々と品定めするために難航しました。強行した譲り受けの時さえ、妻は帯同さえしない最後の抵抗を見せましたが、今では妻も子供達と犬を取り合う有様です。

妻も動物が好きなことを知った上での引き取りでした。

家に来た時は、毛並みも悪く、歩く姿でさえ違和感がありました。狭いゲージに押し込められ、人間に触れられずに育ったからでしょう。今では、子供達の優しさに微笑みを浮かべ眺め過ごす一日が、自分の癒し空間となっています。

(角鹿鉄工専務)

IoTでどんなことができるのだろうか



理事代理
小室 健太

先日実に興味深い講義を受けてきた。

IoT (Internet of Things)、ICT (Information and Communication Technology) 技術というもの。Googleで検索すればいくらかでも説明が出てくると思うのでここでは割愛する。

今回の講習では基本的な説明のみだったが、未来を感じさせてくれる内容だった。

そもそもなぜこの講義を開いてもらったかということ、昨今、建設業界に限らず人材不足はどの業界でも深刻な状況だからだ。

素人でもわかるくらい人口が減っている状況で、若手の人材確保は厳しいものだと実感できる。

外国人実習生、女性社員雇用など色々な対策はあるが今回は人材に限られた中で今よりも生産性を高めるためにどうしたらいいか、ということで今回の講義に臨んだ。どこまで自分の会社に落とし込めるかは未知数であるが、感想としてはやってできないことはないのだな、現状の状況を数値的に集め分析する。といった感じだ。

今はまだ具体的に鉄骨業界にどのように落とし込めるかは未知数ではあるが人材不足が打開できないこの世の中、生産効率を上げる希望となってくれることを期待している。

(小室鉄建常務)

感謝する事の大切さ



理事
小島 昌夫

「ありがとう」の反対は何ですか？と突然聞かれた時、直ぐに答えは出ませんでした。

「当たり前」だそうです。

周りの方に助けて頂いたり、親切にして頂くと「ありがとう」と感謝するのですが、それが毎日続いて、何十年も経つといつの間にか「当たり前」になってしまい感謝する気持ちが薄れてしまうことがあります。

これは家族にも従業員にも当て嵌まることで、結婚したばかりの頃は毎日炊事洗濯をしてくれて感謝していたのに、いつの間にかそれを当たり前に思ってしまう自分がいます。

自分が外に出掛けることが出来るのは留守を預かってくれる家族や従業員が居るおかげなのです。

いつもお世話になっている周りの

方々に、そしていつも支えて頂いている従業員、家族に感謝の気持ちを忘れずに行動していかなければならないと気付かされました。(小島工業社長)

備えあれば憂いなし



理事代理

村木 晃次

昨年中は、組合役員と関係者の皆様には大変お世話になり、また今年も昨年同様宜しくお願い申し上げます。

さて、昨年は自然の力を改めて知らされる年でした。

1月には、福井県で記録的な大雪となり、6月には大阪で9月には札幌での震度6の地震、7月には西日本豪雨また1991年以来という21号、24号の2つの大型台風が上陸いたしました。

われわれの業界においても労働力不足や従業員の高齢化などと重なり、鋼材資材の供給や輸送などに大きな影響を及ぼし現場の納期に追われるなど大変苦労致しました。

私事になりますが、3年前より自治会の班長役が輪番で回りその時に関わった防災部にいまでも所属しています。春や秋に防災訓練を開催し、いざという時のため、身近な人同士助け合う『共助』や行政機関が取り組む『公助』などの考え方もありますが、特に

ひとり一人が自ら取り組む『自助』という考え方を広め活動しています。

『自助』には、緊急避難グッズや非常食の準備、家具などの転落防止などの用意も必要ですが心の準備も重要です。当たり前ですが自分の身を自分で守る事ができなければ、他の人や地域の安全を守る事(共助)は出来ません。

いつ来るかわからない災害に平常より備え『備えあれば憂いなし 一般の宰相 傳説』の心で平成最後であり40代最後の今年を前向きに乗り越えていきたいと思っています。

(アイ・テック営業部次長)

歴史は繰り返すのか？



監事

中込 千秋

先頃、大阪万博が2025年に行われることが決まった。

このイベントで真っ先に思い出されたのは、昭和39年の東京オリンピック、またその後、昭和45年の大阪・千里丘陵の万国博であった。

私のような年配者は54年前の10月10日からの開催の東京オリンピックはよく憶えている。10月1日には東海道新幹線が開通した。その後、大阪万博までの6年間の経済は比較的順調であった。ただその後、昭和48年の「ニクソン・ショック」でドルは金

との裏付けがなくなり、また、1ドル360円の固定相場から、264円の変動相場、現在は110円前後で円高、円安を繰り返してきた。その後、中東戦争を契機に、石油価格が短期間に3倍以上となってしまい、日本経済を大きく揺さぶった。

昭和の末から平成の初めにかけて、バブル経済に浮かれた時も暫くはあったが、バブル崩壊後の鍋底を這うような長期不況が続き、やっと不況を抜け出したと思ったら、その後リーマン・ショックが続き、景気の動向に左右される私共の業界は辛酸をなめてきた。

今現在は2020年の東京オリンピックの施設や訪日客のためのホテル等の施設、さらには物流施設の建設で、瞬間的には活況が続いている。

加えて「コラムがすぐには入らない」「ボルトがなく建方が出来ない」「工場も現場も職人(技術員)が不足し納期が遅れている」状況だ。

でも、9月頃にはこの不足感は解消されるかもしれない。来年の東京オリンピック、2025年の大阪万博までは堅調な経済環境が続くことを期待はするが、地震など自然災害もある。東西・南北の政治的な対立があるかもしれない。

政治経済は絶えず動いている。歴史は繰り返すかもしれない。

私達は不況が常態と考え、絶えずその備えを怠ってはならない。不況が常態と考えれば、一時的なミニバブル景気はプラスアルファと考えられると思われる。(中込工業所社長)

管理技術者試験準備講習会

1級193人、2級90人が受講

当組合は9月29日、東京都千代田区の連合会館で鉄骨製作管理技術者講習会を開催した。当日は関東・甲信越の鉄構ファブを中心に鉄骨製作管理技

術者1級193人、同2級に90人が受講した。

講師は、鉄骨製作管理技術者1級が羽石良一氏(建築鉄骨構造技術支援協会常務理事)、同2級は大塚英郎氏(大林組東京本店建築事業部品質管理部鉄骨品質管理課課長)が担当した。



理事役員会報告

◆1月理事会◆

□1月17日、アルカディア市ヶ谷□

理事会では組合組織として新たに「顧問会議の設置」を審議、これを承認し、次年度から運用を開始することを決めた。次年度から理事役員の大規模な世代交代が見込まれ、組合運営面における課題の相談、サポートなど円滑な業務遂行から顧問会議を新たに設けるもの。①招集は理事長が行う②会議は理事会が諮問する課題等について協議③顧問会議で討議し、得られた結果は理事会に答申する④開催は四半期に1回程度（うち1回は理事会と合同開催とする）——としている。

引き続き、同所で賀詞交歓会が行われた。全国鐵構工業協会関東支部の岸部直喜支部長（神奈川県鉄構業協同組合理事長）、横浜国立大学の青木博文名誉教授らの来賓あいさつの後、鋼構造出版の田中正幸顧問の乾杯の発声で、懇親会がスタートした。

◆2月理事会◆

□2月22日、組合会議室□

理事会で青年経営者委員会が主催する「東構塾」の新塾長に青野弘毅塾長補佐（元那須ストラクチャー工業）の就任を承認した。1月に死去した古藤凱生塾長（元那須ストラクチャー工業専務）の後任となる。

青野氏はこれまで古藤塾長の補佐を務め、また、古藤塾長が体調を崩してからは事実上、塾長代行として業務を担当していた。今回、組合として依頼状を作成し、青野塾長補佐に手渡すことになる。

当日の理事会では全構協関係、関東支部関係、各委員会の活動状況を報告。審議事項では来年度事業予算案作成を踏まえ各委員会の事業計画を協議した。事業計画では①東・中西地区へ

の工場訪問継続②JASS6改定説明会③社内基準の見直し説明会④協力会との合同会議⑤役員改選に伴う新役員体制などを審議、いずれも方向性を決め、継続審議とした。

◆3月理事会◆

□3月15日、組合会議室□

理事会では5月に開催する通常総会の議案、役員改選に伴う新体制などについて審議した。

通常総会はすでに5月23日に東京都千代田区のアルカディア市ヶ谷での開催が決定しているが、理事会では平成30年度事業計画・予算案などを承認、役員改選に伴う新体制について具体的な候補者を選定した。

教育・技術委員会ではJASS6改定講習会の4月開催と講師を決め、会場設営や運営方法などを説明した。

また、前回の理事会で「東構塾」の新塾長に青野弘毅塾長補佐（元那須ストラクチャー工業）の就任を承認したが、組合としての任命手続きを近く行うことを決めた。また、当組合では、全国鐵構工業青年部連合会が行っている社会貢献事業としてのノズル・チップ収集に協力しているが、その換金額も発表した。

◆4月理事会◆

□4月24日、組合会議室□

5月23日に開催する通常総会の提出議案を中心に審議した。

通常総会前に集中審議を行ったもので、平成30年度予算案、同事業計画案のほか、総会と懇親会での役割分担などを決めた。

役員改選も行われるが、次世代経営者が新理事に加わるなど理事役員の世代交代を見込んで事業計画では、「今年を次世代経営者による組合経営の元年と位置付けた」諸活動が盛り込まれる予定だ。

なお、当日は全構協関係、関東支部関係、各委員会の活動状況を報告。こ

のうち教育・技術委員会では4月に実施したJASS6改定講習会、鐵建（群馬県、Hグレード）工場見学会の収支などの説明が行われた。

◆5月理事会◆

□5月23日、アルカディア市ヶ谷□

当日、開催する通常総会・懇親会の運営を中心に審議した。

通常総会・懇親会の役割分担、委員会や部会を含む新役員体制などを協議、それぞれの担当を決定した。また、組合活動に対する組合員の意見集約とその反映など事業の活性化や拡充を目的に実施している東西地区の工場訪問について両地区とも6月を目処に行う予定とした。

なお、当日は全構協関係、関東支部関係、各委員会の活動状況を報告。当面の開催日程なども併せて報告されたが、このなかで通常総会で退任が決定した飯田理事長と池田英敏副理事長（池田鉄工会長）に対し、5月31日に「感謝の夕べ」が開催されることを改めて通知した。

◆6月理事会◆

□6月26日、組合会議室□

吉岡理事長は冒頭のあいさつで「組合員のための理事会であるという認識をもって、理事役員17名が、協力し合ってその役割を果たしてほしい。協力会も重要な存在だ。地区会、HPなどを活用しながら組合活動の活性化を図っていこう」と協力を呼びかけた。

当日は新理事紹介のあと、全構協、同関東支部、東構協各委員会、同グレード部会、青年経営者委員会、東構塾などの活動状況を報告した。



◆7月理事会◆

□7月26日、組合会議室□

吉岡理事長はあいさつで「組合員の手持ち工事量は多く、なかには100%以上という企業も多い。各社とも繁忙期を迎えているが、製作協力など相互間の協議で仕事そのものが円滑に進むようであってほしい」と活発な情報交換を呼びかけた。

当日は9月開催の鉄骨製作管理技術者講習会の作業担当(5名)を決めた。

また、相互支援協定に関連して平成30年度災害時連絡体制を審議。東地区、西・中地区別の組合員名簿に基づき、全体の連絡網を作成した。最終的に一部詰め作業を残すものの、概略は当日までに整備されたことになる。

◆9月理事会◆

□9月25日、組合会議室□

当日の理事会では9月開催の鉄骨製作管理技術者講習会の受講者数を報告、受付業務や設営準備の作業担当者(5名)を確認した。

審議事項では相互支援協定に関連して平成30年度災害時連絡体制について協議。東地区、西・中地区別の組合員名簿に基づき作成した全体の連絡網のタタキ台に基づき、担当窓口や連絡先など未記入部分は事務局が組合員と連携をとり、完成させることにした。

さらに中小企業等担い手育成支援事業(厚生労働省)の参加者について協

議した。同事業は日本溶接協会が受託して、新人(技能者)教育を公費で行う国のモデル事業。日本溶接技術センター(神奈川県川崎市)が会場となる。組合として2社が参加する予定。

◆10月理事会◆

□10月23日、組合会議室□

当日の理事会では審議事項として①平成31年賀詞交歓会の実施方法②リポート東構協の発行③共済事業の強化④I o T講習会の実施など当面の事業活動について協議した。

賀詞交歓会は1月15日にアルカディア市ヶ谷で開催し、スケジュールや担当、来賓招待者などについては継続審議とした。また、リポート東構協は今回、電子版発行とし、HP上にアップして周知することを決めた。共済事業の強化では組合員との交流機会の増加、パンフの配布など組合協力会の加入メリットを優先して取り組むとした。さらにI o T講習会は12月にアルカディア市ヶ谷での開催を決め、当日は青年経営者委員会との合同忘年会を開くことにした。

◆11月理事会◆

□11月27日、組合会議室□

審議事項で「仕事のやりとりのルール化」を協議。旺盛な需要環境のもと会員間で製作協力への依頼が増加しているが、万が一のトラブル回避のため

「製作依頼確認書(案)」を作成、そのフォーマットをもとに協議した。

口頭による内容確認や契約ではなく、書面による相互確認でトラブルを回避しようとするもので、フォーマットは①製作部位②工場加工③現場工事④支払い条件など各項目別に明細と支給や作業の有無を明記、依頼者と協力者が確認する内容となっている。

協議の結果、揉め事の防止、相互の作業内容の確認からも有意義としてルール化の推進を承認、改めて内容について次回理事会で詰めることにした。

◆12月理事会◆

□12月11日、アルカディア市ヶ谷□

Mグレード部会、R・Jグレード部会の全国総会のそれぞれ3月7日、同8日開催を報告、また、東構塾の工場見学も3月実施の方針を固めた。当日は同所で協力会メンバーとの懇談会が行われた。共済事業の強化の一環として、同組合協力会会員(17社)の加入メリット等について本音で意見を交換、協力会と組合の今後の運営の在り方を協議する目的で開催されたもの。協力会メンバーからは、新年会・総会などの懇親以外に理事会後の製品PRのほか、地区会やゴルフコンペへの積極参加など「相互で接する機会を多くして活性化を図りたい」との意見のほか、協力会のPR用冊子の作成の提案もあった。

平成30年度通常総会を開催 新理事長に吉岡氏を選出

当組合は5月23日、東京都千代田区のアルカディア市ヶ谷で総会を開いた。

役員改選で、新理事長に吉岡晋吾副理事長(吉岡工業社長)を選出、新副理事長に前田茂昭理事(前田製作所社長)、谷村忠行理事(谷村製作所会長)を選任した。また、新理事に飯田茂氏

(飯田製作所専務)、池田和隆氏(池田鉄工社長)、小島昌夫氏(小島工業社長)、金本貴範氏(日伸鉄工建設常務)を選出、執行部の若返りを図った。

総会は平成30年度事業計画・予算などすべての議案を満場一致で可決した。

吉岡新理事長は就任あいさつで「組合員が組合加入のメリットを共有できる運営を目指したい。また、東京は全国的にも注目を集め、関心度は高い。

情報発信で業界がより活性化できるような“モデル”となる事業活動を推進していきたい」と協力と理解を求めた。



「飯田、池田 両氏に対する感謝の夕べ」

両氏の長年の功績を称える

当組合は5月31日、東京・千代田区のアルカディア市ヶ谷で「飯田歳樹、池田英敏両氏に対する感謝の夕べ」を開いた。

5月23日開催の通常総会での役員改選で、退任が決まった両氏に対し、吉岡理事長が代表世話人となり、開催を呼びかけたもの。理事役員を中心に約30人が参加、両氏の長年の鉄構業界と組合活動への功績を称え、感謝の気持ちを伝えた。

吉岡理事長はあいさつで「お二人か

ら全国的なネットワークの大切さなど多くの貴重なことを学んだ。感謝しきれない気持ちでいっぱい。東京はすべての中心であり、業界の関心度も高い。全国に自信を持って発信できる協力体制のもとで活動を進めていきたい。ご支援や相談を引き続きお願いしたい」と述べた。

飯田前理事長は「私は人に恵まれ、皆様に育てて頂いた。その結果だと思う。一人ひとりに感謝の気持ちを伝えたい」、池田前副理事長もこれまでの経緯を振り替えつつ「飯田氏とは一回も理事会など活動に欠席しないという、いわば『ノプレス・オブリージュ』の精神でやってきた。(職務には)常に義

務と責任が伴う」と述べ、使命感の重要性を強調した。

鋼構造出版の田中貴士社長の乾杯の発声で懇親会がスタート。色紙や花束贈呈、参加者によるメッセージなど多彩なイベントを通じて、両氏の長年の功績を称えた。



感謝の夕べ

鉄建(群馬)の本社工場を見学

「5S」への取り組みなどを学ぶ

当組合は4月18日、研修行事の一環として群馬県のHグレードファブ、鉄建(本社・工場=群馬県藤岡市東平井、小山慎一社長)の工場を見学した。「きれいな工場からきれいな鉄骨が生まれる」をモットーに5S活動を推進し、若年労働者の定着率が高い魅力ある会社づくりで成果を上げる同社の取り組みから企業経営のヒントを学ぶことが目的。組合員企業ら約40人が参加した。

研修会では鉄建の小山社長が「わたし自身、他社から多くを学ばせてもらった経緯があり、当社としても常にオープンな姿勢で見学者を受け入れている。本日もありのままをお見せするので、皆さんと密な情報交換が出来ればと思う」と語った。一行ははじめに同社の本社事務所で会社概要と5Sへの取り組みについて説明を受けた後、2班に分かれて工場内を見学した。

同社は3万4369平方メートルの敷地に柱を製作する第1工場と梁を製作する第2工場があり、工場の建築面積は計

1万342平方メートル。2つの工場に隣接して計1万3634平方メートルの製品ヤードを保有。月産量は1200～1300トン。05年に現在地に移転し、工場の拡張や設備の増強を図りながら今の生産体制ができあがった。

柱専用の第1工場では柱大組立やコア・仕口用の溶接ロボット7台が夜間も稼働して柱製作の溶接量全体の3割強をカバーし、人手による溶接が残る7割弱を占める。第2工場は素材となるH形鋼の一次加工から梁部材の製作・塗装まで一貫通で行う。土地柄、冬場に北部の山地を越えて季節風が強く吹き下ろす日が多く、塗料の飛散を防止するため両工場とも屋内の塗装ブースを備える。

同社の鉄骨製作を支える設備の中でも各所に配置されたクレーンが要(かなめ)の一つといい、部材の横持ちに



本社事務所前で記念撮影



大組立溶接ロボットなど設備も充実

かかる時間的ロスを減らす工夫がみられる。屋内外に定格荷重2.8～15トンの天井クレーンや橋形クレーン計40台を設置し、横と縦の移動を上手く組み合わせ合わせて効率的な動線を実現した。台数が多いことからクレーンの待ち時間がほとんどなく、生産性の向上につながっている。

工場見学終了後の質疑応答で同社による5Sの実践ポイントを尋ねられた小山社長は、「5Sの推進は整理が起点となる。いるものといらないものを仕分けし、不要なものは捨てる思い切りの良さが重要だ」と強調。清掃についても社員が一丸となって取り組んでいるとし、「月曜日の一斉清掃と毎日1時間の当番制による清掃に加え、各自が自分の持ち場を自発的に片づけてくれている」と説明した。

「次代の人材育成が課題」

青経委が総会

当組合の青年経営者委員会(青経委、幹事長=松田一朗・松田鋼業社長)は6月20日、組合会議室で総会を開き、役員改選で松田幹事長をはじめ全役員の再任を決議。前幹事長で今年度東構協の理事長に就任した吉岡晋吾相談役の退任を承認した。

松田幹事長は「ここ数年、世代交代が進み、役員のほとんどが親組合の理事を兼ねるようになった。今後の運営の在り方を考えると、青経委の次代を



担う人材の確保・育成が課題だと認識している。青経委の将来について皆さんと真剣に議論したい」と語った。

今年度事業計画では「地域・業種を越えたオープンな事業運営」を基本方針に東構塾やかぜのかいの運営、他県青年部会との交流などに重点を置く。

「IoT」の具体的な活用を学ぶ

当組合は12月11日、東京・千代田区のアルカディア市ヶ谷で「IoT講習会」を開催。「ICT・IoTを使った生産性向上」をテーマに城西コンサルタン



湯山氏が講演



トグループ・シニアコンサルタントの湯山恭史氏が講演した。

湯山氏は、中小企業の現状と課題、深刻化する人材不足(業種別)の現状、日本の労働生産性の実態、建設業界の現状、働き方改革など現在の社会的な背景を統計的に説明。そのうえで、ICT (information and Communication Technology)、AI (Artificial intelligence)、IoT (Internet of Things) の活用事例を紹介した。なかでもクラウドを活用した仲間探しや ICT 活用による働き方改革・業務効率化、IoT 活用による設備保全や溶接ロボットなどの具体的な事例は、参加者の関心を集めた。

地区会員名簿

東地区(25社) 地区長 (株)前田製作所 前田 茂昭

No	会社名	グレード	No	会社名	グレード	No	会社名	グレード
1	川岸工業 株式会社	H	10	エスイー鉄建 株式会社	M	19	株式会社 小久保鉄工	R
2	叶産業 株式会社	H	11	中央鋼材 株式会社	M	20	株式会社 長谷川工業	R
3	株式会社 アイ・テック	M	12	株式会社 日伸鉄工建設	M	21	株式会社 矢萩鉄工	未
4	株式会社 飯田製作所	M	13	中央ビルト工業 株式会社	M	22	株式会社 奥村鉄構	未
5	株式会社 前田製作所	M	14	鈴木鉄工建設 株式会社	R	23	有限会社 幸栄工業	未
6	吉岡工業 株式会社	M	15	有限会社 高市工業	R	24	津覇車両 株式会社	未
7	株式会社 中込工業所	M	16	株式会社 角鹿鉄工	R	25	株式会社 市川スチールエンジニアリング	未
8	株式会社 谷村製作所	M	17	三進建鉄 有限会社	R			
9	富士工業 株式会社	M	18	株式会社 コイワ	R			

西地区(23社) 地区長 (有)坂爪建鉄工業 坂爪 幸男

No	会社名	グレード	No	会社名	グレード	No	会社名	グレード
1	株式会社 矢嶋	H	9	井戸鉄建 株式会社	M	17	島崎工業 株式会社	R
2	東京建鉄 株式会社	H	10	株式会社 かしや建設工業	M	18	有限会社 天野鉄工所	R
3	松田鋼業 株式会社	H	11	株式会社 三侖鉄工	M	19	有限会社 山上建設工業	R
4	池田鉄工 株式会社	M	12	有限会社 坂爪建鉄工業	M	20	有限会社 修和鉄工	R
5	日本鉄構建設工業 株式会社	M	13	有限会社 金谷鉄工所	M	21	有限会社 石川鉄工	R
6	小島工業 株式会社	M	14	株式会社 小室鉄建	M	22	株式会社 帝都建工	未
7	株式会社 鎌建工業	M	15	株式会社 ヤマトミ	M	23	有限会社 大橋鉄工所	未
8	井上鉄工 株式会社	M	16	株式会社 酒多鉄工所	R			

東京鉄構工業協同組合協力会員名簿

役職	会社名	〒	住所	TEL	FAX	代表者 担当者	役職	業種・取扱商品
				E-mail				
会長	野村産業(株)	206-0812	東京都稲城市矢野口786-1	042-377-6352	042-378-0655	野村 宗孝	代表取締役	高圧ガス、溶材機器
				noc-t@nomura-s.co.jp		小林 映喜	所長	ハイテンションボルト
副会長	富士見興業(株)	166-0003	東京都杉並区高円寺南1-27-11	03-3314-1430	03-3314-5818	石塚 勲	代表取締役	高圧ガス、溶接材料
				honbu@fujimikougyo.co.jp		小林 克也		機械、工具
幹事	大日本塗料(株) 東京営業所	144-0052	東京都大田区蒲田5-13-23 TOKYU REIT蒲田ビル8F	03-5710-4501	03-5710-4520	真鍋 育功	所長	全構協指定塗料
				nemoto-taka@star.dnt.co.jp		根本 隆史	主任	錆止め塗料
幹事	(株)アマダマシンツール	259-1196	神奈川県伊勢原市石田200	0463-96-3471	0463-96-3472	橋本 文夫	東日本ブレイクアップ社長	パントソー用プレート
				fumio.hashimoto@amada.co.jp				
幹事	大同生命保険(株) 首都圏地区営業本部	103-0023	東京都中央区日本橋2-7-1 NOF日本橋本町ビル6F	03-3667-8021	03-3667-8022	平川 光典	営業推進部長	生命保険
				hirakawa.mitsunori@daido-life.co.jp				共済保険
幹事	中村鉄興(株)	359-1164	埼玉県所沢市三ヶ島1-478	04-2948-0610	04-2949-2209	中村 弘美	代表取締役	切り板
				ntk@viola.ocn.ne.jp				孔あけ
会計	有修溶工(株)	340-0833	埼玉県八潮市西袋2番地	048-953-9895	048-953-9896	浪花 俊勝	代表取締役	スタッド溶接工事
				stud@yu-shu.co.jp		滝沢 健一	営業部長	材料販売
監査	ダイニッカ(株) 東京支店	104-0032	東京都中央区八丁堀1-9-5	03-3552-3163	03-3552-3162	山梨 克之	支店長	全構協指定塗料
				r-kasamatsu@star.dainikka.co.jp				錆止め塗料
	加研工業(株)	136-0071	東京都江東区亀戸5-23-6	03-3684-8031	03-3684-8042	高橋 亨	代表取締役	研削砥石製造販売
				takahashi@kaken.net				
	(株)星和	121-0052	東京都足立区六木2-6-27	03-3605-0817	03-3605-3521	星野 傳弘	代表取締役	鋼材、建築資材
				seiwa@seiwa-web.net		北嶋 重司	専務取締役	ボルト、ナット、仮設機材
	太陽日酸ガス&ケミカル(株) 八王子支店	192-0032	東京都八王子市石川町2973-3	0426-31-3801	0426-31-3808	乗川 秀嗣	支店長	高圧ガス
				naoki.miyasaka@tn-sanso.co.jp		増田 翼		
	東京電気通信(株)	162-0065	東京都新宿区住吉1-19 ナカク階橋ビル	03-3356-9071	03-3356-9354	遠藤 裕二	代表取締役	情報通信システム
				okabe@tokyo-dt.com		岡部 直樹	部長	NTTコム代理店
	所沢資材(株)	359-0032	埼玉県所沢市若松町852	04-2992-0231	04-2998-0570	小高 進一	課長	ベースパック
				tokoshi-odaka@sand.ocn.ne.jp		佐藤 庄悟		ハイベース
	フルサト工業(株) 神奈川営業所	242-0025	神奈川県大和市代官3-1-2	046-267-5424	046-268-1051	宇佐美 雅章	所長	鉄骨副資材
				f0441@furusato.co.jp				ボルト
	(株)丸和	279-0025	千葉県浦安市鉄鋼通り2-6-8	047-304-0811	047-304-0819	中畑 充弘	代表取締役	縞鋼板専門
				maruwa.mpc@checkerplate.co.jp		阿部 孝典	課長	鋼板加工
	美鈴印刷紙工(株)	135-0033	東京都江東区深川2-24-11	03-3643-4485	03-3642-3265	飯島 隆典	代表取締役	印刷・原寸用フィルム
				misuz-film-1@tokyo.email.ne.jp		佐藤 智輝	営業次長	製造販売
	(株)瑞穂鋼建	277-0054	千葉県柏市増尾1-27-14	04-7173-6652	04-7173-8485	塚田 武治		ベースパック、フリードーナツ
				tsukada@mizuhokohken.co.jp				ファブラックス

編集後記

いま手元に大臣認定違反事例一覧が記載された印刷物があります。2007年のニチアスのケイカル板の認定不正受検から2018年のKYBの制振ダンパーの検査不正まで27件の国土交通大臣認定品等の不正、不適合の品質問題が記載されています。

2015年3月東洋ゴム工業の免振材料の国土交通省大臣認定不適合問題は新聞TV等マスコミで大きく報道され社会問

題化しました。メーカーはその免振材料を使って製品化された不適合品はすべて取り換え工事を行うことになりました。それから3年余経てKYBの免振、制振ダンパーの検査不正が発覚しました。所定の性能を満たしていない製品を大臣認定品として出荷していることが判明したのです。制振ダンパーの取り換えは免振ゴムと異なり構造フレームの中に一体化して用いているために建物の一部をスケルトンにする必要があります。いずれにしても大変な時間とエネルギーがかかることとなります。原因はと問われると会社側は「品質検査に携わる人が少なかっ

た」と共通しています。しかしそれだけでしょか？根本的に製品のチェック体制の不十分さ、甘さがあると思います。

いまファブ業界を同じ視点で見たらどうでしょうか？工場認定制度によって品質確保体制(仕組)5年ごとにチェックされます。しかし人手不足、熟練工の減少、工期が短い等様々な課題があります。このような状況だからこそ東洋ゴム、KYBの不正問題を他山の石とする必要があります。

(東京鉄構工業協同組合 事務局長 加藤 哲夫)